

例えば、当事者から光がづらいので蛍光灯を外してほしいと願って、本人の上だけ蛍光灯を外す、音が気になるので静かなところで仕事をしたいと願って、プリンターや電話から離れた席の配置にする、などです。当事者本人ができる対策としてはイヤーマフやサングラスなどをすることなどがあげられます。企業側がご本人の特性を理解し、対策を行うことを了承することも配慮の一つです。既に海外の企業では感覚過敏によって体調が悪くなった時に休憩する空間、「センサリールーム」の設置が進んでおります。

感覚過敏研究所ではこのセンサリールームの提案を企業に行っています。BGMがない、光量が自分で調節できる、自分が安心して回復するまで休めるなど、個々人で要望は変わるとは思いますが、過敏になった感覚（センサリー）をフラットに戻す作業ができる場所が整備されていくことを期待しています。

● クリスタルロードや感覚過敏研究所の今後

感覚過敏であることを把握できるツール作りや感覚過敏になるメカニズムの解明、症状緩和や全くなくすることができる薬、デバイスの開発にも取り組んでいきたいと話す加藤さん。感覚過敏という症状を多くの企業さんに知ってもらい、感覚過敏がある人が社会に参加しやすく働きやすい世界を作っていききたい。感覚過敏がある人が我慢せずにやりたいことをあきらめず

に生きる道を歩んでもらいたい。株式会社クリスタルロードの社名のごとく、これからも加藤さんの挑戦は続いていきます。

● 取材を終えて

感覚過敏研究所の事務所は間接照明で、加藤さんが仕事をしやすい環境になっていました。私たちも心身の状態によって五感への刺激がいつもより強く感じられ、体調を崩すこともあります。自分自身の日常を振り返ると『感覚過敏』という言葉が身近に感じられるのではないかと思いました。自分の日常での出来事に置き換えることで、感覚過敏の困りごとを抱えながら生活している方々のつらさに寄り添うことができるのではないのでしょうか。そして、生き方の選択肢を増やし、選択できる社会を一緒に創っていくことが共生社会であると語る言葉が印象的でした。感覚過敏のある方も安心して暮らせるように、相手の立場に立って考えることが合理的配慮の第一歩ではないかと改めて感じました。

(インタビュー・構成：佐藤 美津紀)

【会社概要】

感覚過敏研究所（運営会社：株式会社クリスタルロード）
所在：東京都中央区日本橋横山町6-14 日本橋地下実験場
感覚過敏研究所では感覚過敏の人が暮らしやすい社会を目指して、感覚過敏の啓発、商品・サービスの開発、感覚過敏の研究を行っています。
<https://kabin.life/>

EVENT × NEWS

令和4年度第4回地域交流会 新しい「働き方」について考える ～外出困難な方が活躍できる場～



松島 尚樹氏

分身ロボットカフェで働くパイロット

中島 寧音氏



ロボットカフェで働く中島氏、松島氏にご登壇いただき、分身ロボットカフェで働くことになったきっかけや、実際に働いてみての感想、これからの夢について伺いました。

中島氏の講演では自身の障害や OriHime を知り、分身ロボットカフェで働くきっかけや実際に働いている感想、OriHime の活用を通してできた夢について話していただきました。たくさんの方との関わりから一人ではないこと、働くことの楽しさや役割があることの嬉しさ、やりがいを感じられたことをお話しいただきました。また、OriHime を通じて様々などころへ外出し、たくさんの方の経験からできた夢を紹介していただきました。

次に松島氏より講演をしていただきました。分身ロボットカフェで働くことになった経緯やその間の葛藤や気持ちの変化を話していただきました。分身ロボットカフェでの接客を通して、何をすれば喜んでもらえるのか常に考え、仕事が楽しいと感じるようになったことや新たにバリスタへの挑戦や、外出困難者に寄り添う仕事がしたいという夢ができ、悔いのないように胸を張って力強く歩いていくと話していただきました。

最後に質疑応答を行い、開催終了後には OriHime を通じて講師との会話を体験する時間を設け、新しい働き方について考える機会となりました。

千代田区自立訓練（生活訓練）マルクカレッジ秋葉原 ～自分のペースで生活スキルを身につける～



2022年3月に開所しました、自立訓練（生活訓練）事業所です。

私たちのサービスは、自分のペースで可能性を広げ、社会に出るための準備ができる場所です。社会生活や余暇活動の充実、居場所としての役割、長期的には就労に向けたステップアップの場所として活用しているご利用者様もおり、多様なニーズを形にする事業としてサービス提供しております。

また、卒業までに獲得すべきスキルを整理し、強みを明らかにしていく「自立生活チェックシート」や「支援ハンドブック」等、オリジナルコンテンツで一人ひとりの社会に出るための準備を形にしていきます。その他にも、コミュニケーションツールとしてeスポーツをプログラムとして提供していたり、ご本人の自己選択・自己決定を養うことで自信をつけてもらう目的として自由時間（Jタイム）を設けていたりしております。見学や体験は随時可能ですので、お問合せお待ちしております。

住所：東京都千代田区神田松永町104TSKビル3F <https://college.maruc-group.jp/>
お問合せ：月～土 9:00～18:00 TEL 03-5244-4360/FAX 03-5244-4361
最寄駅：JR 秋葉原駅徒歩2分、東京メトロ日比谷線秋葉原駅徒歩2分



就労支援のお問い合わせ

電話：03-3264-2153 FAX：03-3556-1223
E-mail：chiyoda.syuroushien@city.chiyoda.lg.jp
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

発行：千代田区障害者就労支援センター 2023年第60号（令和5年4月20日発行）
取材協力：感覚過敏研究所
毎回、働く障害のある方やその職場を紹介していきます。次号もご期待下さい。